

平成25年度長与町民文化ホール自主事業

東儀秀樹

雅楽ワークショップ

Gagaku workshop Hideki Togi

「雅楽」を分かりやすく解説。
雅楽師 東儀秀樹が日本伝統音楽

2014年
1月25日[土]
13:30開場 14:00開演
長与町民文化ホール

◆ 全席自由	一般：2,500円
	[当日]：3,000円
	高校生以下：1,500円
	[当日]：2,000円

- ◆ チケット販売：長与町教育委員会生涯学習課・長与町民文化ホール・くさの書店(西友道の尾店)
- ◆ 主催：長与町教育委員会(095-883-1111)
- ◆ チケット発売開始予定日：平成25年11月20日(水)
- ※前売り券で全席完売した場合は、当日券の販売はございません。
- ※駐車場の収容台数に限りがありますので、できるだけ乗り合わせていただくか公共交通機関をご利用下さい。



東儀秀樹

雅楽ワークショップ

Gagaku workshop Hideki Togi

東儀秀樹 / 雅楽師

Hideki Togi PROFILE



1959年東京に生まれる。

東儀家は、奈良時代から今日まで1400年間雅楽を世襲してきた楽家である。

父の仕事の関係で幼少期を海外で過ごし、ロック、クラシック、ジャズ等あらゆるジャンルの音楽を吸収しながら成長した。高校卒業後、宮内庁楽部に入る。楽部では箏篳(ひちりき)を主に、琵琶、鼓類、歌、舞、チェロを担当。宮内儀式や皇居において行われる雅楽演奏会などに出演するほか、海外での公演にも参加、日本の伝統文化の紹介と国際親善の役割の一翼を担ってきた。その一方で、ピアノやシンセサイザーとともに雅楽の持ち味を生かした独自の曲の創作にも情熱を傾ける。

1996年デビューアルバム「東儀秀樹」で脚光を浴び、以後次々とアルバムをリリース。

2000年「TOGISM2」で日本レコード大賞企画賞を受賞。

同年「雅楽」以後8度にわたり、ゴールドディスク大賞 純邦楽・アルバム・オブ・ザ・イヤーを受賞している。

最近では、映画「源氏物語」(主演:生田斗真)にも一条天皇役として出演。

東日本大震災後は震災に対するチャリティ活動に参加し、コンサートにも参画。特に子供たちにむけて支援を行った。アルバム「子どもたちに優しい未来を」にはそんな意味を含めての曲「子どもたちへ優しい未来を」が収録されている。

2012年3月に15周年記念アルバム「TOGI」をリリース。全米と同時発売となった。また、2012年3月、米国桜植樹100年開会式に招待され、ワシントンのコンベンションセンター、ケネディセンターで演奏し、アメリカでも注目を集めた。

また絵の才能を発揮し、絵本「光り降る音」「天つ風の音」「星月夜の音」(文・かんのゆうこ)では挿絵を担当。

著書に『すべてを否定しない生き方』『雅楽:僕の好奇心』などがある。

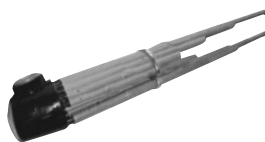
※学習院女子大学非常勤講師、上野音大、名古屋音大、池坊短大客員教授、皇學館大学特別招聘教授、大正大学客員教授を務める。

東儀秀樹オフィシャルホームページより
<http://togihideki.net>

雅楽 (ががく)

表現としては、「管弦」「舞楽」「歌謡」の三つの形態があり、古来から皇室の典礼、御遊、また神社仏閣の祭典などにも奏されてきました。日常では接する機会が少ないですが、「打ち合わせ」、「二の舞を踏む」など雅楽に由来する言葉が多数残っていることからわかるように、私たちの生活と密接した関係にあります。

「管弦」は楽器だけの演奏表現で、正式には箏(しょう)、篳篥(ひちりき)、龍笛(りゅうてき)の三種の管楽器、琵琶、箏(こと)の二種の絃楽器、太鼓、鞆鼓(かっこ)、鉦鼓(しょうこ)の三種の打楽器の編成で演奏されます。



しょう
箏

17本の竹を束ねたような形をして、その内の15本の竹の根元に金属のリードが付いており、息を吹いたり吸ったりすることでリードが振動して音となります。その形は鳳凰が翼を立てている姿とされ、古代からその音色は「天から差し込む光」を表すとされています。西洋のパイプオルガンやアコーディオンのルーツであるともいわれています。



ひちりき
篳篥

18センチほどの竹の筒に差し込んだリードから息を吹き入れて音を出す縦笛です。古代からこの楽器の音色は「地に在る人の声」を表すとされています。男性が普通に出せる声の範囲とほぼ同じ1オクターブ+1音(西洋音階のソから1オクターブと1音上のラ)と狭い音域です。主に主旋律を担当する楽器です。西洋のオーボエなどのルーツともいわれています。



りゅうてき
龍笛

竹の管で作られており、7つの指穴がある横笛です。その音域の広さを活かし、副旋律を演奏します。また、通常、楽曲の最初の部分はソロ演奏となります。低い音から高い音の間を縦横無尽に駆け抜けるその音色は「舞い立ち昇る龍の鳴き声」と例えられ、それが名前の由来となっています。シルクロードを伝わり、ヨーロッパでフルートになったといわれています。